

1. 概要

- (1) 開催日：2009年3月18日（水）18：40～20：30
- (2) 場 所：竹中工務店大阪本店1階 いちようホール
- (3) 今回の座長役：福島（清水建設）
- (4) 議事録作成者：川口（船井電機）
- (5) 出席者：22名 小川（アイアイジェイテクノロジー）、日下（住友電工）、萩原（大林組）、前田（富士火災）、川口（船井電機）、廣本（神戸大学）、田中（グリコ栄養食品）、寺西（ストアジャパン）、西濱（西濱防災ネット）、福島（清水建設）、藤村（竹中工務店）、柳父（大阪ガス）、大辻（公文教育協会）、大野（アビームコンサルティング）、久保田（銀泉リスクソリューションズ）、佐原（鈴与）、杉原（大阪市）、紅谷（人と防災未来センター）、大和（リックシステム）、速水（大阪地下街）、荒二井（日本気象）、久保田（ダイワハウス）（順不同・敬称略）
- (6) 講演
演 題： 「非常時（災害や事故等）における企業の情報発信について」
講演者： 高橋淳夫 研究調査員（人と防災未来センター）

2. 講演概略

新潟県中越沖地震における柏崎刈羽原子力発電所の対応を例として、非常時における企業の情報発信のあり方について、述べます。

- (1) 被災状況の発表のマズさ
当初、放射能洩れは確認されていない、住民の避難も必要ない、と発表。その後、微量の放射能を含んだ水の外部への漏えいが見つかったと発表。そのため、世間から非難を受け、不信感を増幅させた。例えば、「これまでの調査では、放射能漏れは見つかっていない」、との言い方が良かったように思う。
- (2) 想像力・イメージ力の重要性
同発電所は、事故原因の究明以外にも、打たなければならぬ手があったのではないか、そういったことへの想像力・イメージ力が欠如していたのではないか、と思われる。
- (3) 情報発信の目的
非常時に、企業は社会的責任として情報発信する義務があるが、公的機関や公的企業に比して一般企業の責務は曖昧で、積極的に情報発信しないと埋没してしまう恐れ大。
- (4) 過去の教訓
 - ・住民や関係者の不安解消、企業の社会的責任に常に留意する。
 - ・社内の意思統一をしておく。バラバラはまずい。
 - ・わからないことは「わからない。現在、調査中」とする。推測でものを言わない。
 - ・安易な謝罪は、全て悪いとなる。「世間をお騒がせしたことを謝罪」、責任問題は別。
 - ・個人情報の公開は常に注意する。遺族・家族の了解を取ってから。
- (5) 非常時における情報発信のあり方
 - ・「消費者を守る」「社会を安心させる」等、目的意識を持ち、自らの意思で積極的に広報すべし。
 - ・実現のための「3つの指針（はり）」、目くばり、気くばり、めりはり。
- (6) まとめ
 - ・情報発信の目的意識を明確に、社会的責任、事象の重要性を認識すること。
 - ・情報分析と広報と連動が重要、マニュアルの過大視に注意。
- (7) 主な質疑に対する回答
 - 1) 新聞社のBCPは、朝日・日経・読売は相互援助協定を締結し、非常時は相互バックアップする。また、三社の共同ニュースサイトも作成。
 - 2) 災害報道の訓練は特にしていない。基本理念を教え、常識や個人的な信念が働くようにしている。取材は平常時からの延長である。
 - 3) 裏とりは、被災者の声を大事にし、行政機関の発表とのズレを問題点とし検証する。そのためには、

コメント [TK1]: 小川さんのご指摘より

必ず現場へ行き、他紙やテレビをよく見て、自分が絶対に正しいと思わないで、必要に応じて修正して行く。

- 4) 「やらせ」はすべきではない。常識の範囲内で、分かり易くするため、カメラに向かって、ポーズをお願いすることはある。
- 5) 広域災害時の報道の優先順位は、人命、生活、仕事、地域経済の順ではないか。命と安全が最優先。
- 6) 記者の行動基準は、自分の命は自分で守る。理由説明が不十分な立ち入り禁止の現場において、記者との押し問答が良く見られる。適切な理由説明があれば、記者にも理解でき、押し問答にはならない。
- 7) 新聞社として欲しい情報は、人命、二次災害、安否確認、事業への影響、再発防止策。個人情報、死亡者の裏とりのため必要。
- 8) 企業ホームページの有効性は、取材労力の軽減になるが、裏とり必要。HPには生命、安全に関する事柄の掲載を希望。政府が自治体間を結んだプラットフォームを作成しようとしている。
- 9) 求める迅速性は、遅くとも「2時間以内」に第一報が欲しい。
- 10) 報道姿勢は、姉歯事件など、発言者のキャラクターに報道が左右されるケースもあり、要注意。
- 11) 記者会見をすべきかどうかは、災害・事故等で人命と安全に関する問題なら必ず開いてほしい。
- 12) 記者会見において準備するものは、説明文のほかに、図面や写真も欲しい。
- 13) 企業が注意すべきことは、正直、迅速、正確、想像力、報道機関との日常の関係、分からないケースは「現在、調査中です。〇〇頃、調査結果を発表します」などとする。
- 14) その他として、記者は正義感が強く、強い者には強く対抗するので、その点をご理解を。

3. 次回の関西支部会合・勉強会

- 日 時： 4月15日（水）18：00～20：30
- 場 所： 住友電工
- 支部会合： 18：00～18：30 座長：萩原（大林組）、書記：前田（富士火災）
- 勉強会： 18：30～20：30 座長：藤村（竹中工務店）、（書記）未定

以 上